広報九州

平成24年７月10日
（２０１２年）
No　１６８６

九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話 050-3160-6600(代表)
http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/

国民の森林・国有林

准フォレスター研修がスタート
～九州各県から96人が受講～

今年も6月25日から、熊本県人吉市において、熊本南部森林管理署のフィールドを活用し、准フォレスター研修がスタートしました。

研修生は、九州各県の県職員83人、国有林の職員13人、合計96人が3グループに分かれ、それぞれ延べ2週間受講し、10月までに研修を修了する予定です。

研修講師は、九州・宮崎・鹿児島大学の有識者のほか林野庁、九州森林管理局及び森林管理署の職員も担っています。

九州各県から研修へ参加された第１グループの受講生と講師＝人吉市

開講式では、九州森林管理局矢野彰宏計画部長より、林野庁を代表して「人材育成は森林・林業再生プランの大きな柱の一つ。この研修を通してフォレスターに期待される役割や習得すべき知識・技術について理解を深めていただきたい」旨のあいさつがありました。

第1週目の研修は、フォレスターとしての役割、地域の森林づくりをサポートしていくために必要な市町村森林整備計画や森林経営計画制度、木材の流通・販売などについて、また、森林施業プランナーと連携・指導をしていくために必要な知識について講義及び演習・実習が実施されました。

実習については5班に分かれて、34年生のヒノキ人工林において、発揮を期待される森林の機能などを踏まえて将来の目標林型を検討し、そこに向けてどのような施業を実施していくか検討。また、集約化された20㌶程度の団地において、効率的な間伐をするため森林作業道をどのようなルートで配置するのか机上及び現地で検討・実習し、活発な議論・意見交換が行われました。

とりまとめ内容を発表する班代表

9月から実施される第2週目の研修では、１０００㌶程度のまとまりのある木材生産団地を対象として、10年間の間伐計画と林業専用道の整備計画について事業収支なども踏まえた総合的な森林整備の構想を策定し、プレゼンする演習や研修1週目及び2週目の学習内容を、各県が持参する市町村森林整備計画に落とし込み、その実現に向けた取組について検討する演習を実施することとしています。

（担当＝指導普及課）

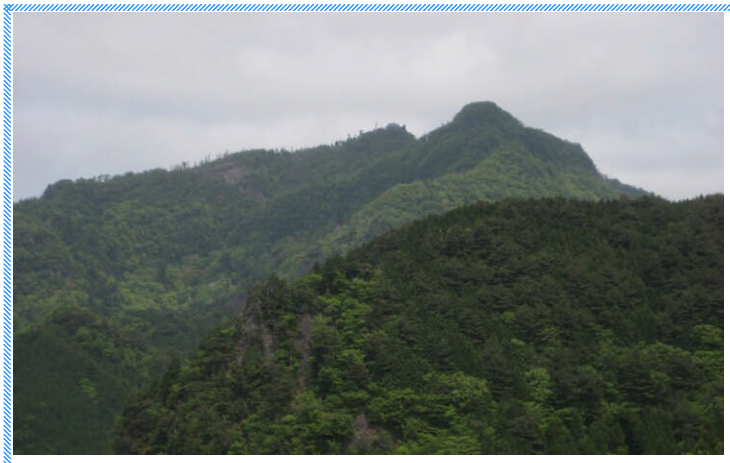
班単位で森林作業道について検討する受講生

自署の名山

福岡森林管理署
彦山森林事務所
森林官　坂本　雄二

日本三大修験山 霊峰「英彦山」

英彦山（ひこさん）は、福岡県と大分県との境に位置し、北岳1192㍍・中岳1188㍍・南岳1200㍍の三峰からなる山です。九州百名山の一つであり、耶馬日田英彦山国定公園に指定されています。山頂付近は神社有地で、聖地をお守りするかのように周囲に国有林があります。



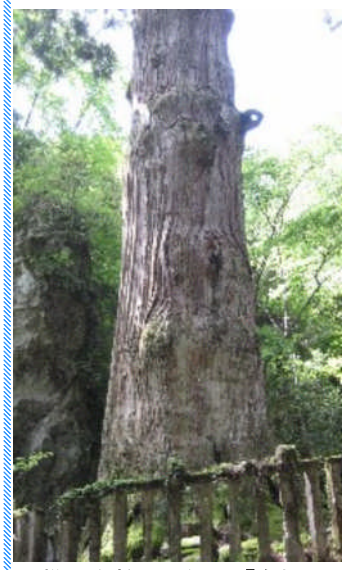
上宮の鎮座する英彦山中岳（中央奥）と南岳（右奥）

英彦山の名称の由来は、紀元前に神武天皇がご東征の際、天村雲命を遣わせ山上に天照大神の御子である天忍穂耳尊を祀られたことから「日子山」と呼ばれていました。平安時代に入り819年に嵯峨天皇より「日子」を「彦」に改められ、1729年の江戸時代には、霊元法皇より「英」の字が授けられたので「英彦山」と称するようになりました。また「日本三大修験山」に数えられ、531年の古墳時代に北魏の善正上人が来朝し、豊後国日田郡の藤原恒雄が弟子となり霊仙寺を開山したのが修験道の起源とされ、神仏習合により平安時代には坊舎3800を数え、以降修験道場として栄えました。明治時代に入ると神仏分離令等により修験道が廃止され、神を祀る山となりました。

登山道を彩る「ツクシシャクナゲ」

英彦山は火山活動によってできた山で奇岩怪石がよく見られますが、難所や鎖場も多く北岳中腹にある断崖絶壁の望雲台ではスリルを体感できます。

登山道周辺は、修験道時代の坊舎や窟などの史跡が点在し昔を偲ばせてくれます。またシオジやブナの美林のほか杉の巨木やモミが林立し、天然記念物の「鬼杉」は推定樹齢1200年に及びます。



推定樹齢1200年の「鬼杉」

下層には場所によりツクシシャクナゲ、ゲンカイツツジ、ドウダンツツジ、オオヤマレンゲなどが生育し、花咲く頃は心をなごませてくれます。

山腹の神宮奉幣殿まではスロープカーでも上れ空中散策が楽しめ、中岳には本殿上宮が鎮座し聖地からの眺望は荘厳に尽きます。

幾度峰入りしても素晴らしい自然の中に歴史を感じ、神秘と荘厳さが漂う霊峰英彦山に魅了されます。

交通事故防止コンクールにて受賞

【福岡森林管理署】当署は、早良・城南交通安全協会に所在する106事業所の交通事故防止コンクールにおいて優良事業所の表彰を受けました。これは、日頃から交通安全活動を展開した事業所へ授与されるもので、当署における交通災害ゼロの功績が認められたものです。当署では全職員による交通三悪の撲滅や車両点検の実施など交通災害防止対策を図っているところです。福岡県では、飲酒運転撲滅に取り組んでおり、「福岡署から絶対に交通災害を出さない」との強い決意のもと、職員一丸となって交通災害防止に取り組んで参ります。

優良事業所の表彰状を手にする森隆繁署長＝福岡署

採材現地検討会を開催

【北薩森林管理署】5月28日、伊佐市布計国有林をフィールドに請負事業体と森林官及び関係職員約60人が参加し、採材現地検討会を開きました。曲がり矢高やシカの剥皮被害木を見ながら検討・発表した後、市場関係者と効率的且つ有効な採材や注意すべき事項について意見交換を行い、参加者から「市場と考え方の共有ができ、大変勉強になった」との感想があり、今後もニーズに応えるべく関係者と情報の共有を図っていくことを確認しました。

有効な採材について検討する参加者＝北薩署

「平和と環境の森」にて間伐体験

【大分森林管理署】「食とみどり・水を守る大分県労農市民会議」関係者64人は、契約している、由布市立石国有林の分収造林「平和と環境の森」において、保育間伐に取り組みました。参加者らは、森林の役割や環境問題、間伐の目的と方法について説明を受け、輪尺と測桿を用いて間伐調査を体験。その後、間伐木の伐倒にチャレンジしました。小雨の中での作業となりましたが、間伐木が倒れるたびに歓声が上がり、有意義な体験林業となりました。

輪尺を使用し間伐調査をする児童ら＝大分署

木質バイオマス施設の視察

【宮崎北部森林管理署】木質バイオマス利用取組の一環として、6月25日、延岡市のバイオマス関連工場の視察を行いました。谷明産業大武事業所で、林地残材を燃料チップとする木質バイオマス工場の加工工程を見学。原料確保については、大分県南部を含めた県北地域に搬入拠点を拡大し搬出コストを下げ、採算ベースに乗せることが重要との説明がありました。また、今年7月から本稼動する旭化成ケミカルズの木質バイオマス発電施設を視察。今年度は主に建設廃材を利用する計画であるが、林地残材の木質バイオマスの活用も検討しており、再生可能エネルギー固定価格買取制度が施行されることから、林地残材活用について、職員一同認識を高めることができました。

工場関係者からの説明を聞く職員＝宮崎北部署

ちょっと一言

官民一体化で林業活性化を図る

南那珂森林組合
代表理事組合長
島田　俊光

高度成長期であった昭和50年代、林業も例外ではなく、飫肥杉は造船用材（飫肥弁甲材）として韓国や中国・四国地方へ出荷され隆盛を極めていました。しかし、高度成長時代の終わりと共に造船材としての木材利用も減少しました。そこで住宅用材への転換を図りましたが、今度は建築用材へ転換した為の弊害が出てくるようになりました。宮崎の製材工場はツインバンドソーと呼ばれる中目丸太を一気に2面製材できる台車を設置していますが、現在伐期が来ている山林の一番丸太が40㌢以上の径級のため、この台車に通らなくなっているからです。

そのため、大径材の価格の下落、売れ残りが頻発し、森林所有者の育林放棄が起きています。

このような中、林業再生の取り組みとして官民一体となって取り組む集約化事業が始まりました。国と民間が一体となってお互いの得意分野を有効活用し、健全な森林づくりを行いながら、災害に強い山づくりと、育林コストを見直した健全な森林経営を行い、外材に負けない国産材販売を行うものです。

現在、森林管理署の指導の下、取り組んでおりますが、森林所有者も林業に明るい兆しが見え始めたと大いに期待しています。

今年度より始まる森林経営計画もさらに考えを進め、利用間伐で小径木・大径木を間伐することで、定量・定質・低コストの林業を目指しながら、大径材利用の場も考え、生業として成り立つ林業を目指し邁進していきたいと思っています。

国有林防災ボランティア研修実施

国有林防災ボランティアの研修会が、梅雨時期や台風シーズンを前に、熊本会場で6月7日、27人、都城会場では6月12日、35人の参加を得て実施されました。

国有林防災ボランティア制度は、九州森林管理局長と認定非営利法人（社）熊本林業土木協会が協定を締結し、国有林野内での山地災害の情報収集を地域の土木技術者などをボランティアとして活用することにより、災害の発生に迅速かつ円滑に対応することを目的とするものです。

研修は九州森林管理局治山課中村実敏課長などが講師となり、災害復旧制度、国有林防災ボランティア制度の概要やボランティアの実施に当たっての留意事項について説明があり、今年度も安全の上に立ったボランティア活動の実施を確認しました。

（担当＝治山課）

局治山課中村課長の講話を聞く参加者＝熊本会場

シカ捕獲技術向上を目指して

【熊本南部森林管理署】5月22日、深刻化するシカ被害の軽減を図るため、職員によるシカ捕獲技術の向上を目的に「シカ捕獲技術等検討会」を行いました。最初にシカ被害の現状と捕獲にあたっての安全対策について署会議室で座学を行い、午後から現場に移動し、地元猟友会の講師から捕獲効率を高めるためのシカ道の見極め方や罠設置のポイントについて講義を受けました。当署では深刻化するシカ被害の軽減を図るため今後も積極的に対策を講じることとします。

講師よりシカ道の見極め方を学ぶ＝熊本南部署

「国有林モニター」募集へのきっかけは

多田　啓さん

曾祖父の代が製材所、祖父の代で原木市場を始め、世代的にはこの業界に携わらせて頂いて4世代目になります。

父の仕事の関係上、高校生までは首都圏で育った私ですが、夏休みに帰省するたびに祖父に山林によく連れていって貰っていました。隣地との境界の見方や樹齢、間伐や枝打ちの話や注意点などを教えてくれていました。

帰省し家業を継いで、7年程になります。不動産管理や一般住宅の建築材料を供給している仕事をしていますが、和室の数、木材を見る箇所の少なさ、住宅の中で木材の良さを訴える箇所が少なっているのを感じます。良い木材を使いたい、使って欲しい業界や現場の想いがある一方で、木材に対して割ける予算は昨今のお施主さんの懐具合によっては厳しくなっています。それらの複数の需要の低迷が木材製品価格の下落、引いては山林の原木価格を引き下げている面があります。

2年前に祖父が亡くなり、先祖代々受け継いでいる山林を受継ぎました。祖父が存命の時は、間伐、林道整備などを地元の森林組合にお願いして維持に専念していました。山林の価値や将来性を考え、一度全伐を行っていた方が良いと判断し、順次手を入れています。自分たちがこのような山林を持つことができているのは、先人たちが植えて残してくれたからです。自分が生きているうちに伐採できるかは微妙なところですが、子どもの顔を思い浮かべながら取り組んでいます。

山林を事業単体で見ると、お金が出来るのは、10年に1回の間伐とそれに伴う補助金によるもので、植林して最初の20年は下刈りなどで手出しが多いのが実情です。月次でお金が入る不動産賃貸、年単位の農業に比べると、桁外れに長い期間です。現在の会社の会計の考え方からすれば、帳簿上、十年単位でお金を生み出さない不動産（山林）も悪、在庫（立木）も不回転在庫扱いで悪という扱いになってしまいます。

国有林は、このような業界の在庫リスクを引き下げ、木材関連業界の仕事や材を供給することができる大切な役割があります。また先進的な取組などで今後の山林経営に対しての多くのフィードバックを期待しています。国頼み、補助金頼みという狭い意味でなく、国有林や民有林の相互の人材や情報の交流を通じて今後の木材業界が新しい時代を迎えるように微力ながら自分も尽力していきたいと思います。

（福岡県筑前町在住）

勤続30年の感激を新たに

1級63人と2級13人 農林水産大臣表彰

6月20日メルパルク熊本において、平成24年度国有林野事業職員定期表彰式を開催。1級精勤章（勤続30年）63人・2級精勤章（勤続20年）13人に農林水産大臣表彰の伝達を行いました。

式典は、1級精勤章受賞者及び来賓や局幹部出席のもと執り行われました。

はじめに、平之山俊作局長が皆さまのこれまでの努力と苦労に敬意と感謝の意を表し、心からお祝い申し上げる。今後も、健康に留意し、それぞれの部署の中枢として、これまでの経験と知識を更に発揮され、一層活躍頂くよう期待する」と式辞を述べたあと、受賞者を代表して宮崎南部森林管理署の松葉瀬裕之技官に農林水産大臣の表彰状を伝達しました。

その後、林野庁長官の祝辞を竹花祐治総務部長が代読。続いて全国林野関連労働組合九州地方本部の永山博美委員長から来賓祝辞をいただきました。

最後に、治山課の井野常雄技官が「この栄誉と本日の感激を糧に、国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、更に全力を傾けていくことを誓う」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典を終わりました。

受賞者を代表して平之山局長から農林水産大臣表彰状の伝達受ける宮崎南部署松葉瀬技官

式辞を述べる平之山局長

1級精勤章（勤続30年）

◇定員内職員◇51人

白石裕次（企画調整室）
岩下隆徳（総務課）
山本貴二（総務課）
下崎哲也（職員厚生課）
本田博邦（職員厚生課）
下村裕治（職員厚生課）
福山拓也（経理課）
余瀬秀一（経理課）
古島勝美（指導普及課）
甲斐孝生（指導普及課）
久保幸治（森林整備課）
井野常雄（治山課）
杉野隆二（福岡署）
井本清水（福岡署）
堀田信広（福岡署）
真野康彦（福岡署）
小原豊治（長崎署）
牧瀬和孝（長崎署）
中島龍太（長崎署）
佐藤敏郎（熊本署）
江藤幸二（熊本南部署）
吉海裕和（熊本南部署）
村木信一郎（熊本南部署）
藤井正明（熊本南部署）
森　勇二（大分西部署）
古庄誠司（大分西部署）
武原龍行（大分西部署）
塚本順一（大分西部署）
山下真治（大分西部署）
小原正人（大分署）
兒玉祐二（大分署）
佐藤昭晴（大分署）
奥田博司（大分署）
森　利幸（宮崎北部署）
福田錦吾（西都児湯署）
古川浩児（宮崎署）
中村公治（都城支署）
犬童伸博（都城支署）
緒方誠治（都城支署）
郷原寛美（都城支署）
川野博之（都城支署）
松葉瀬裕之（宮崎南部署）
沖田寿浩（宮崎南部署）
植薄和彦（北薩署）
淀水義文（北薩署）
橋本敏一（北薩署）
橋口康朗（鹿児島署）
瀬戸口英昭（鹿児島署）
小薄政弘（屋久島署）

受賞者を代表して謝辞を述べる治山課井野技官

中村正任（屋久島署）
佐藤隆幸（沖縄署）

◇定員外職員◇11人

宇野裕和（森林技術センター）
夏田豪介（大分署）
山本博美（宮崎北部署）
甲斐信重（宮崎北部署）
喜田　稔（宮崎署）
万前隆幸（宮崎署）
大園信男（都城支署）
境田政照（都城支署）
切通利美（北薩署）
福元良昭（北薩署）
井立田和則（北薩署）

◇元定員外職員◇1人

大谷英雄（熊本署）

2級精勤章（勤続20年）

◇定員内職員◇11人

猪鳶憲治（経理課）
内海康雄（長崎署）
前川康弘（熊本署）
中川秀樹（熊本南部署）
松永恭一（熊本南部署）
河本正人（西都児湯署）
谷山亜紀子（宮崎署）
山本隆之（宮崎署）
水本博充（都城支署）
田中善成（宮崎南部署）
平野耕一（大隅署）

◇定員外職員◇2人

江口保広（熊本南部署）
坂元健次（都城支署）

（担当＝総務課）

「心の健康づくり」について講話
平成24年度安全週間講演

安全週間準備期間中の6月20日、局大会議室において「心の健康づくり」講話を開きました。例年、署長等会議に併せ行っており、今回も当局の心の健康づくり相談員である、桜が丘病院の村尾憲優先生を講師に招き、局内職員や各署長など、多数の参加がありました。

講話では、「とらわれの悪循環」から回避するため、自然をあるがまま認め受け入れ、今なすべきことに心を向けて行動するなど「心のベクトル」の持ち方や、職場でのコミュニケーションのための「傾聴」の大切さなど分かりやすい話題を提供していただきました。参加者にも好評であり、日常の自分の心のコントロール、周りの人達との接し方などおおいに参考になったと思います。

今回の講話が、今後も明るく健康的な職場づくりの一因となれば幸いです。これからも機会を捉え、職員の皆様の「心の健康づくり」に役立つ話題を提供していきたいと考えています。

（担当＝職員厚生課）

「心の健康づくり」講話に参加したみなさん

「緑のオーナー友の会」が交流会開催

【熊本南部森林管理署】「平成24年度緑のオーナー友の会交流会」が当署管内の大畑国有林「千年の森林広場」において、会員や家族など約40人が参加し開かれました。当日はあいにくの小雨模様の天気でしたが新緑の中、豚汁、たかんぼ飯などの野外料理を堪能しながら、職員による紙芝居やビンゴゲーム、子供を対象にしたスイカ割りなどで交流を深め有意義な一日を過ごしました。

参加者全員で記念撮影＝熊本南部

森林春秋

「梅雨」

四季の移り変わり、改めて気づいてみると、正確に、毎日、前へ前へと進んでいるように思える。

5月連休の後、紫陽花が咲き始めたが、色ヤケして鮮やかさがなかった。6月に入り梅雨入りすると、紫陽花に露がしたたり鮮やかになった。紫陽花は、雨がよく似合う。今年の梅雨入りは、平年に比べ1～3日遅れだそうだ。季節の移り変わりが、実に正確で、不思議なものだ。梅雨は雨が長く続くと気分もめいるが、梅雨入りした途端、紫陽花だけでなく、道ばたの雑草から、山の木々まですべての緑に元気が感じられる。生き生きとした緑に合わせて、人間世界にも元気が吹き込まれた気がする。

先般は、金環日食で話題になったが、3箇月も前は枯れ草だった遊水池公園は、背丈にも達しそうな草野になっており、太陽の恵みの偉大さを感じる。

今年の四季の移り変わり、良いことを期待して、快く感じて過ごしたい。

（森林整備課長　山部正富）

森林作業道作設技術研修会の開催

【屋久島森林管理署】林業事業体の技術向上を目的に愛子嶽国有林で熊毛流域森林・林業活性化センターと共同で、森林作業道作設技術研修会を行いました。まず、森林作業道作設指針の説明を業務課長が行い、午後から根株の利用方法、表土ブロック積み工法の実技による手順の検討を行い、その後、作業を実施しての感想や使用したザウルスロボの操作方法などについて、意見交換しました。参加事業体による熱心な討論で実りある研修会となりました。

実技による手順の検討を行う＝屋久島

九大生が間伐展示林を見学

【大分森林管理署】大分県中部流域林業活性化センターと連携し、由布市の星岳国有林に設定している間伐展示林を九州大学の教授と学生17人が見学。展示林は間伐普及のため、約12㌶を列状、帯状、放射線状、定性、鋸谷式、無間伐の対照区に区分して設定。学生らは念入りに展示林内を見て回り、各区の間伐方法を実際に見て、多くの質問をしていました。

展示林の概要について説明を受ける＝大分署

「交通法令講習会」と「車両点検説明会」を開催

安全週間中の行事として、7月4日「交通法令講習会」と「車両点検説明会」を開きました。午前中、局大会議室において開いた「交通法令講習会」は、熊本北警察署から交通第一課坂本政幸係長を講師として招き職員約90人が参加しました。

講習会では、まず、ドライブレコーダーに録画された事故の事例や、交差点での安全確認の方法などについてDVDを視聴したあと、講師よりDVDの内容及び熊本市内で発生した事故を事例として講話を受けました。

講話内容は、ドライブレコーダーは事故の状況を録画する事だけではなく、運転者への心の抑止力にもなること、一時停止線はなぜそこに設定してあるのかを考えれば、停止線の必要性や事故の抑制効果が理解できること、また、熊本市内で起きた事故の事例を参考に右折時の安全確認の重要性について、分かりやすく話をしていただきました。

講話の最後には、飲酒運転は犯罪であること、飲酒運転は絶対にしない、また当事者に酒や車を提供するなど、関与した者も同罪であることなどを強調されていました。

この講習を受け、職員においては「交通事故を絶対に起こさない」、「飲酒運転は絶対にしない、させない」事を改めて確認できた講習会でした。

午後からは、局構内車庫において「車両点検説明会」を開催しました。約30人の参加のもと、局の車両整備の契約相手である整備工場から講師を招き、乗車前の点検としてタイヤの状況、エンジンルームからブレーキ、ライトなど、細かい点検のポイントについて、専門家ならではの説明をしていただき、参加者は真剣に聞き入っていました。

日常の始業時点検が交通事故防止の第一歩だと考え、今後においても始業時点検を確実に行い安全運転に徹していただければと思います。

（職員厚生課）

交通法令講習会へ参加した職員＝局大会議室

車両点検の要領について説明を聞く参加者＝局構内車庫

管理監督者の綱紀保持のための講習会を開催

発注事務の適切な実施に関する理解を深め、関係法令の遵守及び綱紀の厳正な保持を図ることを目的に、森林管理署長等会議に併せ、管理監督者などの綱紀保持のための講習会を開催しました。公正取引委員会より講師を招き、「入札談合防止に向けて」と題し、事例を交えての講義に、約70人が受講しました。

今後とも、適切な発注事務を行うためには、関係法令の遵守・厳正な綱紀保持に努めていくことが重要と認識しました。

（担当＝総務課）

講習会へ参加したみなさん＝局大会議室

「森のセミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】本年度第1回「森のセミナー」を当署会議室において開き、約60人が参加。第1部で環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏による腹痛とハチや虫刺されに効く薬草について、ユーモアを交えた講話があり、第二部では石神智生署長による生物多様性の必要性やシカによる生物多様性への影響などについて講話を行いました。また、参加者が持ち寄った植物の鑑定も行い、自然の大切さや自然植物の保護の重要生について理解を深めました。

乙益先生の講話を聞く参加者＝熊本南部署

第1回実践公開・講座

18人が葉の構造を学ぶ

～ルーペを使い熱心に観察～

「森林の様々な働きや大切さ」を一般の方々に広く理解していただくため、当局では、熊本城の一角にある監物台樹木園において年5回の実践・公開講座を計画しています。

第1回目の講座は、6月10日「葉の構造を学ぶ」と題して、一般公募による18人の参加により開きました。

参加者は、同樹木園内の「みどりの交流館」で、濱田秀一郎指導普及課長のあいさつの後、九州森林インストラクター会の安楽行雄会長から「植物の分類や専門用語・種の不思議について」の説明を受けました。

ルーペを使い葉の構造を観察する受講者

続いて、4班に分かれインストラクターの方々を講師に、ネコノチチ・オガタマノキなど約20種類ほどの樹木を教材に、触れたり香りをかいだりして葉の特徴や見分け方などをルーペを使って観察したり、講師の説明を熱心に聞き入っていました。

参加者からは「ユーモアを交えた説明でわかりやすくて楽しかった」などの意見が寄せられ、第1回の講座を無事に終了しました。

（担当＝指導普及課）

出前講座を開催

【熊本南部森林管理署】球磨郡多良木町「ふれあいネットワーク」の要請を受けて、当署職員による森林教室を開きました。

当日は、幼稚園児や小学低学年生及び保護者など約60人が多良木町の仁原川に集合。紙芝居やしおり作成などの森林教室をはじめ、ニジマス釣りやつかみ取りなど五月晴れの好天の下、子供たちの歓声が谷間に響いた一日となりました。

しおり作りに挑戦する親子＝熊本南部署

⑤⑧ ヒメシャラ（ツバキ科）

ヒメシャラは標高800㍍前後から出現しますので、標高の高い冷温帯林で観察できます。花は6月頃咲くのですが、梅雨時に咲き、登山していても高木なので、花に気づかず花弁が落ちているのを見て初めて花が咲いているのに気がつきます。

肌が淡赤褐色の樹木は、ヒメシャラ、ナツツバキ、リョウブ、サルスベリがあります。標高の高い冷温帯林でブナやシデ、ミズナラなどと混生し、肌の色が目立ち顕著な縞模様がなければヒメシャラです。標高が高くなるほど肌が滑らかです。

ヒメシャラは肌がきれいなことから家具や建築材、床柱に使えそうですが、材は狂いが大きく、時間がたつと樹皮が黒く変色することから使われていません。

九州にはヒコサンヒメシャラも分布しており、ヒメシャラは冬芽の鱗片が2裂に4～6枚が並び、ヒコサンヒメシャラは2枚の鱗片が向かい合っていますので区分は簡単にできます。

ヒメシャラの名前はシャラノキ（ナツツバキ）に比して花が小さいことからヒメシャラと呼ばれています。花はナツツバキが直径約6㌢、ヒメシャラは直径約3㌢と小さいです。

「数字」にはやはり魔力があるようである▼巷では、アルファベットに48という数字を組み合わせたアイドルグループが人気のようであるが、昔、グループといえば4人が常識。数字の大きさには驚かされたが、語呂がいいのかその数字で世間の話題を呼ぶのである▼最近、数字を巧みに利用した表現方法で心を動かされることがよくある。スカイツリーの高さ634（むさし）もその一つ。東京・埼玉・神奈川の一部を含む武蔵の国の「むさし」にかけて数字にしたとのこと。興味をわかせる絶妙な仕掛けである▼植物にも数字のついた植物がある。針形の葉が5本ずつ束になっている五葉松（ゴヨウマツ）である。ヒメコマツとも呼ばれ北海道南部から九州の山地亜高山帯の急傾斜の露岩地に生育する。奇数を好む日本人にうってつけの植物である▼それはさておき、小生、親しい友と30という数字で一つの節目を迎えた。歳月の早さを感じているのだが、五葉松のように露岩地でも耐えられるような人となるには、まだまだ「数字」が足りないようである（た）